大阪万博と時代の匂い

太田 孝
近畿日本ツーリスト 取締役社長

日本が戦後をようやく脱した1955年に近畿日本ツーリスト株式会社は誕生しました。それから50有余年、日本経済の高度成長・グローバル化とともに、国内外のさまざまな分野で交流・イベント事業が行われ、そのイベント一つひとつに全力で取り組むことで会社は成長し、〝イベントの近ツー〟の名を不動のものとしてきました。

私が入社したのは1966年ですが、1970年3月14日から半年間、「人類の進歩と調和」をテーマに、大阪千里丘陵で開催された「大阪万博」は、当社の52年間の歴史の中で、最もエポックメーキングなイベントでした。総入場者数は6421万8770人。当社の記録によると、「開幕2カ月で早くも入場者が1700万人を突破」とあり、愛知万博（2005年、会期185日間）の総入場者数2205万人と比べても、当時の日本国民の盛り上がり振りがわかります。日本に大レジャーブームが到来したという当時の実感を、今も鮮明に覚えています。

この年、当社の売上高は40％近い伸びを示し、当社も日本の旅行業界も大きな飛躍へと向かいました。社会も企業も熱気に溢れていた時代です。東京オリンピックが開催された1964年に観光海外渡航自由化、そして東海道新幹線開業、翌1965年には名神高速道路全面開通、さらに1970年のパンナムのジャンボジェット就航と、その背景には鉄道網、道路網、航空網などの急速なインフラの整備がありました。

最近、中国各地を訪れるたびに、人々の旅行の様子や旅行会社の雰囲気の中に、当時の日本と同じ〝匂い〟を感じます。2010年の上海万博を契機とした「アジア大交流時代」間近の予感です。

また、この年（1970年）はプライベートでも記念すべき年でした。12月に万博終了を待って結婚、家内とは万博会場を何度か訪れ、将来を語り合ったのも思い出深い記憶です。

私の思い出写真館